

自転車を取り巻く利用環境観察 連載 ⑨

「転倒の危険性がある道路施設」

自転車安全利用研究会 谷田貝一男

自転車の転倒事故が全国で増加しています。2022年は前年より事故件数は1.4倍、自転車事故全件数に対する転倒事故件数の割合は25.6%です。

転倒事故の原因には運転方法や道路状況があります。今回は道路状況として転倒事故が発生しやすい道路施設を紹介します。

交差点周辺のポール

交差点の周辺に自動車の進入を防止するためのポール（写真1）が設置されている箇所があります。このポール横を通行したとき、ポールにペダルが接触して転倒による頭部打撲、右膝が接触して転倒による脚部打撲を負うという事故が発生しています。

また、夜間はポールに気が付かないで接触や衝突で転倒することがあります。

電柱・交通標識

道路端に電柱、交差点付近に交通標識が設置されている箇所



写真1 交差点にあるポール

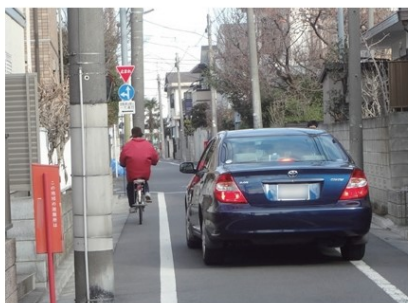


写真2 道路脇にある電柱や交通標識

き、電柱や交通標識に気が付かないとき、接触や衝突で転倒することがあります。

車道と歩道を分離する施設

歩道と車道を縁石で区別している道路では前輪やペダルが縁石に接触、ガードレールで区別している道路（写真3）では後輪がガードレール脚部に引っ掛かる・車体がガードレール本体に接触で転倒することがあります。

安全な通行方法

道路上に設置されている様々な施設に接触・衝突して転倒する事故原因には「事故が発生することがある」という認識がない」「前方不確認で施設の存在に気が付かない」「ふらつき等の不確実な運転操作」があります。これらの原因を取り除くためには自動車が接近したときや施設前での一時停止、施設との間の距離確認とその距離に応じた通行路選択、ふらつきが生じないための慎重な運転もしくは下車して押し歩きを行うことです。



写真3 歩道と車道を区別するガードレール